

かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

野外施設自然情報

バックナンバーは
HPから見られます→



自然環境保全センターの野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を紹介しています。

野外施設トピックス (3~5月)

<スプリングエフェメラル満開>

時期：3月上旬~4月上旬 場所：N10~13
キクザキイチゲ、ニリンソウ、イチリンソウなどが今年もたくさん咲きました！

最初に咲き始めるキクザキイチゲは花卉のように見える萼片が白色と紫色のものがおりその数にも差があります。違う植物のように見えますが、花の下の総苞葉が羽のように切込む形をしている特徴から、キクザキイチゲと判断できます。



キクザキイチゲ(白)



キクザキイチゲ(紫)

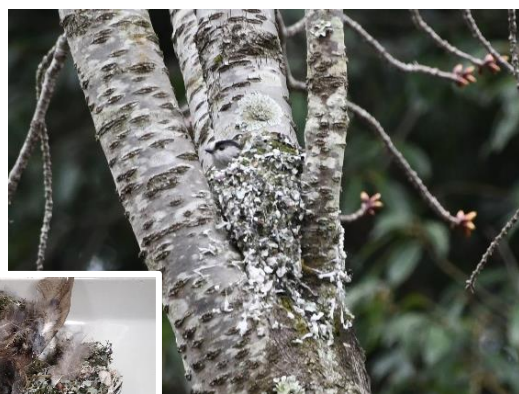
<エナガの巣>

時期：3月下旬~4月下旬 場所：樹木観察園

本館付近のサクラの木にエナガが巣を作りました。頻繁にコケなどをくわえて行ったり来たりして、わずか3日ほどで完成。順調に子育てが進むかと思われましたが、4月29日に巣が壊れて地面に落ちているのが見つかりました。カラスなどのヒナを狙った生き物に襲われたのだと考えられます。

壊れた巣をよく見てみると、コケや動物の毛などが使われていて、やわらかくふわふわしています。さらに、さまざまな種類の鳥の羽が使われていることもわかります。内側に300本以上差し込んで、巣の中を暖かくするのだそうです。

野鳥の巣をつくるスピードや緻密さに驚いた出来事でした。



巣の入口から顔を出すエナガ
木のまたの部分に巣をつくる
(3月21日撮影)



壊れた巣

<自然発見クラブ「罾をつくってザリガニ退治」>

時期：5月20日 場所：自然観察園

竹を使った罾づくりと、事前に仕掛けた罾によるザリガニの捕獲や水生生物の観察を行いました。外来種が生態系に与える影響や外来種を増やさないために正しい知識を持つことの大切さを参加者のみなさんと共有することができました。



竹でつくった罾(左)
事前に仕掛けた罾には20cm近いドジョウも入りました！(右)

ウツギと名のつく植物

毎年、4月から5月にかけて自然観察園ではウツギと名の付く植物が次々と開花します。今回、野外施設で見ることができた「〇〇ウツギ」をご紹介します。

本来のウツギはアジサイ科ウツギ属の植物で、樹高2m前後の株立ちになる低木です。漢字では空木と書き、幹や枝がストローのように中空であることが名前の由来です。今年も重たそうにした枝の先に白い花が房状につき、花に引き寄せられてチョウやハチなどの昆虫が集まる様子も観察されました。

この他のウツギと名の付く植物は、アジサイ科、スイカズラ科、バラ科、ミツバウツギ科と属している科はさまざまで、分類上仲間というわけではありません。ウツギのように幹が中空であったり、姿がウツギに似ていたりすることが名前の由来となっています。園内で見られるそれぞれのウツギの枝先を切ってみたところ、枝が中空なのは、マルバウツギだけでしたが、調べてみるとニシキウツギやツクバネウツギも幹の下の方や剪定して時間が経った幹に空洞ができるようです。その他は、花や樹形がウツギに似ていることが名前の由来ということになります。花の形だけを見るとそんなに似ているようには感じませんが、花の色が白いことや、葉が対生であること、開花時期がほぼ同じであることなどの共通点はありますね。みなさんはどのウツギが好きですか？

ウノハナとも呼ばれる
基本のウツギ



ウツギ 場所: Y20付近



枝の断面

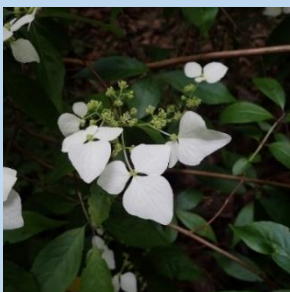


葉は対生

アジサイ科



マルバウツギ 場所: K8付近
ウツギに似るが、葉が丸みを
おびます。枝は中空です。



ガクウツギ 場所: N11付近
沢沿いなどで見られ、3枚の
萼片が花のように見えます。



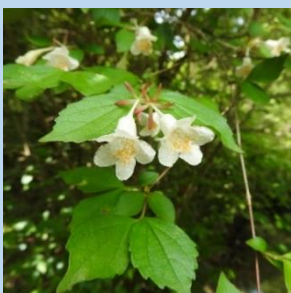
バイカウツギ 場所: M6付近
花にはほのかに香りがあります。

バラ科



コゴメウツギ 場所: K15付近
林に生える1mほどの低木で、
5mmほどの小さな花が咲きます。

スイカズラ科



ツクバネウツギ 場所: Y18付近
萼片が羽根つきのつくばねのよ
うな形です。



ニシキウツギ 場所: Y35付近
花は白から紅色に変化します。

ミツバウツギ科



ミツバウツギ 場所: Y13付近
林縁や沢沿い多く見られます。3枚の小葉からなる複
葉が特徴です。



セリバヒエンソウの除去

3年ほど前から谷戸の斜面に目立つようになった、セリバヒエンソウという植物があります。セリのような形の葉で淡い紫色の花が咲く一年草です。中国原産で、明治時代に日本に渡来したと言われていますが、年々分布が拡大しています。繁殖力が高く、こぼれ落ちた種子からどんどん増えていくようです。このままでは数年で谷戸全域に広がりそうな勢いで、在来植物の生育やほかの生き物に影響を与える可能性もあるため、種子がこぼれる前に職員で抜き取りを行いました。すべて取りきることはできませんでしたが、広がらないように来年以降も抜き取りや刈取を継続していきたいと思っています。



セリバヒエンソウ

傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報やバックナンバーは、ホームページで見られます。

神奈川県 野生動物救護

検索

当センターでは、傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた県内の傷ついたり弱ったりした野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を收容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載しています。

●●● 2023年1月～3月の実績 ●●●

3ヶ月間で受け入れた総数は、哺乳類3頭でした。

救護件数上位種		主な救護原因(人為的要因による)			
種名	件数	鳥類	件数	哺乳類の原因	件数
タヌキ	2	※鳥インフルエンザ対策の為、 2022年9月26日から当面の間、 鳥類の受け入れを中止しています。		疥癬症(かいせんしょう)	2
ムササビ	1			不明	1



←
呼吸困難な状態
で持ち込まれた
ムササビ。
原因は不明。

疥癬症(かいせんしょう)の「リハビリ方法の新たな試み」

受け入れ
当日

哺乳類受け入れ再開！第1号はタヌキ

正面から顔を見ると一見元気そうに見えましたが、疥癬症※1 という皮膚病で体の毛がほとんど抜け落ち、体温も体温計で測れないほどの「低体温」状態で、ぐったりと衰弱していました。



種 名 タヌキ(イヌ科)
受 入 月 2023年2月
救護場所 相模原市南区
救護原因 疥癬症 ※1
(かいせんしょう)

※1 疥癬症(かいせんしょう)については「かわせみ通信 第15号」を見てね！

2週間が
過ぎた頃

フンの中から気になるものが・・・

受け入れ後の14日～16日目の フン※2から、約3cmのうすっぺらい種子が合計7個も出てきました！エサとして与えたことがないため、救護される以前の自然の中で食べていたものと考えられます。

このタヌキが、かつて何を食べていたのか知りたくなるのが野生動物救護担当の性(さが)というもの。早速、水に浸してみたものの、残念ながらそう簡単には芽は出てきてくれませんでした。何の種子だったのでしょうか？

※2 フンと種子の関係については「かわせみ通信 第30号」を見てね！

後日の会話

「調べるとカキの種に近いね。」「干し柿の種に似てる。」「軒先の干し柿を取ったのかも？」「落ちて熟したのを食べたのかな？」等々、想像は膨らみました。

さらに
2週間が
過ぎて・・・

次の段階へうつる…そのタイミングに悩む

投薬による疥癬症の治療が進み、うっすらと新しい毛が生えて元気になってきました。通常は地肌が見えなくなるくらい毛が生えるまで待って、野外の広いリハビリケージに移動するものなのですが、人の気配などに神経質な個体の場合は一刻も早く外のケージに移すことも検討したいところです。



でも、3月は寒暖差が大きく、肌寒い日も多いので、まだ薄い体毛の状態を外に出すのもどうか…と悩んでいました。そこに職員から提案が！

「落ち葉を使いましょう！」

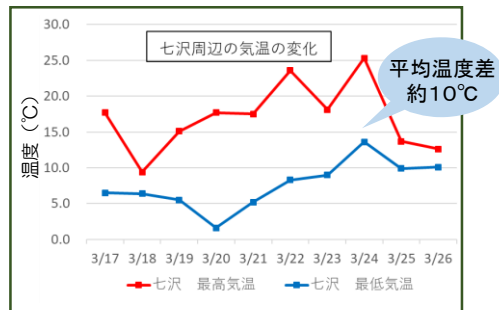
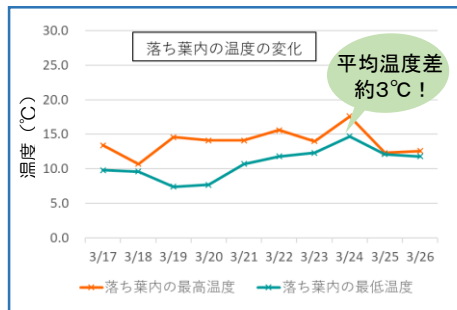
これが「リハビリ方法の新たな試み」の始まりです。

「リハビリ方法の新たな試み」とは？！

野外のリハビリケージ、「落ち葉プール」となる？！

職員の提案を受け、新たなリハビリの試みとして、野外のリハビリケージの中に潜れるくらい大量の落ち葉を敷き詰めてみました。名付けて「落ち葉プール」！

続いて、落ち葉の中の最高と最低の温度差を10日間測定し、保全センター周辺と比較してみました。すると、平均温度差が落ち葉内の方が約3℃とあまり差がないことを確認できました。いよいよ新たな試みの実行です！



情報提供：神奈川県自然環境保全センター研究連携課計測

落ち葉プールでの様子

センサーカメラで見た「落ち葉プール」での様子

自然に身を隠せて外気より温かい環境は、一見、気に入っているように見えますが、タヌキに聞く訳にもいかず、職員の期待からそう見えるだけかも。ということで、センサーカメラで新たな試みの成果を観察してみました。写真や行動パターンから成果があるような？？

下の写真や1日の行動からタヌキの気持ちを想像してみてください。



これこれ♪
って思っているかな？

提案者
Sさん

🐾 とある1日 🐾

① 9時

あくびを
しながら起床



② 9時半

エサはいつも1分以内の
早食い！全部食べます！



③ 18時半

夜間活動して
うんこタイム💩



④ 20時

首をカキカキ
そろそろ寝るかな？



提案者
Sさん

- ・人間が毛布で温まるように、自然界にある「落ち葉」が、タヌキにとっての毛布のような役割りを果たすのではないかと考えました。
- ・毛が生え揃っていない段階でも落ち着いて過ごせる環境をつくりたかったので、このような取り組みができてよかったです！！

4月7日頃（毛が生える前）

4月17日頃（毛が生えてきた頃）

